

光市新市誕生
20周年記念
特別企画

直木賞受賞作家

角田光代

Mitsuyo Kakuta

Profile

角田 光代 Kakuta Mitsuyo

1967年、神奈川県生まれ。90年「幸福な遊戯」で海燕新人文芸賞を受賞し、デビュー。著書に『対岸の彼女』(直木賞)、『八日目の蟬』(中央公論文芸賞)、『紙の月』(柴田錬三郎賞)など、多数。



Message

光あふれるまち

光市のことを知ったのは、私が選考委員をさせていただいている「ふるさとイベント大賞」がきっかけである。光市で行われている「まちぐるみWedding」が、ふるさとキラリ賞を受賞したのである。抽選で一組のカップルを選び、彼らの結婚式をまちぐるみで祝福するという、じつにかわったイベントである。この受賞がきっかけで、光市に呼んでいただいた。私にとって光市もはじめてだけれど、山口県を訪れるのもはじめてである。

まず案内していただいたのは、市内の農園。きれいな水と日差しで日本産のバナナを作っている農園である。私はここではじめて木にたわわに実るバナナを見た。20人くらいのかたがたといっしょにバナナ生産についてのお話を伺

い、参加者全員で食べ頃のバナナをいただいた。

そこから移動して、鉄工所に向かう。鉄道や車両の部品を、ひとつひとつ手作りで仕上げる鉄工所である。お話を伺うと、その長い試行錯誤、精密で緻密な作業、徹底したこだわり、気が遠くなる思いだった。

この工場の屋根から、まちと海が一望できる。振り返れば山々が連なっている。見学者のみなさんと、子どもみたいに屋根に上がって、日差しにきらめく海を眺めた。私が見知った海よりずっと広く思えるその海を見て、ここが「光」という名を持つまちだとあらためて気づく。

くだんの結婚式にも参加させていただいた。まだあかるい夕方、ガーランドや



お花の飾られた屋外に、客席とステージが用意され、市民吹奏楽団の演奏で式が始まる。新郎新婦は中学校の同級生で、ともにバスケ部だったそうだ。ガーランドには、地元の子どもたちによる手書きメッセージが書きこまれ、子どものダンスチームはバスケの動きを取り入れたダンスを披露した。大勢の人の本気の祝福

に感激し、涙もろい私は、新郎新婦の親族でもないのに泣いてしまった。

たった一泊の短い旅だったけれど、光市で見た景色を思い出すと、すべて光があふれている。農園に、海岸に、山の稜線に、まちの光景に、屋外の結婚式に、案内して下さった多くの人たちの笑顔に、うつくしい光が降り注いでいる。

